

Title	学術情報センターの新目録所在情報サービス説明会を開催
Author(s)	
Citation	静脩 (1997), 33(2): 9-9
Issue Date	1997-03
URL	http://hdl.handle.net/2433/37455
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

図 書 館 の 動 き

学術情報センターとの共催による 地域講習会 (IR、CAT、ILL) を開催

平成 8 年度に学術情報センターとの共催で実施した地域講習会は、以下のような日程および内容で実施されました。

- 10月3－4日：I R 講習会 (16名)
- 10月22－24日：C A T 講習会① (10名)
- 10月28－30日：C A T 講習会② (10名)
- 11月19－20日：I L L 講習会 (10名)

センターと協力して、毎年、定期的にこのような講習会を開催してきており、内容については、十分良く知られたものとして定着してきました。ところが、CAT については、学内の受講者は、ある程度行き渡ったのか、このところ少し減少傾向にあります。センターのサービスの安定的な運用、そして利用者の範囲の拡大に伴い、この講習会の役割も大学内に止まらず、より広い範囲を対象とすることになってきたように思われます。

来年度には、学術情報センターのシステムが新 CAT へ移行してゆく作業が開始されることでもあり、次年度以降これらの講習会の開催方法についても再検討が必要になっているのかも知れません。

(和書目録情報掛)

学術情報センターの新目録所在情報サービス説明会を開催

平成 9 年 2 月 21 日薬学部講堂において、学術情報センターが開発を進めてきた新目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) の説明会が開かれました。

関西地区を中心に国公私立大学・短大・高専および公共図書館など 129 機関から、343 名の図書館職員が集まり、新しいサービスの説明に熱心に聞き入りました。

参加者の内訳は下記の通りでした。

国立大学・高専	18機関	109名
公立	17	47
私立	84	175
公共図書館	7	9
その他	3	3
計	129	343

学術情報センターのシステムが、平成 9 年 4 月より、ダウンサイジング、インターネットに対応したものに移行を開始するにあたって開催された、参加図書館への内容説明でした。

本学においても、平成 10 年 1 月に現在の業務用電子計算機システムのリプレイスおよび電子図書館システムの導入・稼動を計画しており、センターとの連携を効果的に図っていく必要があります。

(システム管理掛)

「電子図書館システム」構築に向けて 動き始めました

平成 9 年度概算要求「電子図書館システム」に対して予算が付くことが 12 月 25 日に文部省から連絡が入り、明らかとなりました。

大学図書館機能の高度化のために、京都大学において実現すべき内容として要求していたもので、筑波大学とともに、大学図書館における新規プロジェクトとして、平成 9 年度より、実現に向けて努力していくこととなります。

21 世紀へ向けて、本格的ネットワーク時代にある大学の図書館の在り方の一つの方向性を作り上げ

ることが期待されるわけですが、全学の図書系職員の周知を集めるだけでなく、京都大学における高度情報化の中での取り組みの一つとして、全学的に有効に機能するシステムを作り上げる必要があります。

平成 10 年 1 月の稼動に向けた取り組みがもう始まっています。具体的な計画の立案からその実現へと図書館が有機的組織として機能することによって、大きく変化することになるかも知れません。大学図書館の利用者層の意向をも反映した新しいサービス機関としてどのような変貌を遂げるか、総合情報メ